

国連開発計画 (UNDP)



人々を力づけ、
国々をたくましく

アラブ諸国における日本とUNDP: 開発のパートナー

成長、平和、安定 のためのパート ナーシップ

UNDPは下記のアラブ諸国・地域で活動中：

アルジェリア

バーレーン

ジブチ

エジプト

イラク

ヨルダン

クウェート

レバノン

リビア

モロッコ

サウジアラビア

ソマリア

スーダン

シリア

チュニジア

アラブ首長国連邦

イエメン

パレスチナ人支援プログラム

モロッコ：フェズ・エル・バリの作業所で伝統的な織機を
使う女性

写真：Dieter Telemans/Panos Pictures

発行：国連開発計画（UNDP）アラブ局

ニューヨーク

本文執筆：Laila Saada

国連開発計画（UNDP）と日本政府は、アラブ地域の平和、安全、安定なしに人間の福祉向上は達成できないとの信念に基づき、過去数十年間にわたって重要なパートナーシップを築き上げてきました。私たちはともに、アラブ諸国に暮らす男女や子どもの生活向上のため、バランスのとれたアプローチをとることに努めてきたのです。

今日のアラブ地域には数限りない機会があります。過去2年間にわたり地域内各地で生じた政治的混乱は、数百万の若者たちを刺激し、自分たちの運命を変え、未来を切り開いていこうという決意を結集させました。アラブ諸国の人々はいま、それぞれの権利を強く意識し、前進と生活改善に向けた機会を必死につかもうとしています。UNDPアラブ局が、変革に寄り添い、地域の課題克服の支援を使命とする理由も、まさにここに 있습니다。

若者の雇用は、アラブ諸国での私たちのプログラム全体を貫く優先課題になっています。特に女性と障害を持つ人々の失業率が驚くほど高く、この地域にとって重荷となっているからです。貧困削減、民主的ガバナンス、危機予防と復興、環境と持続可能な開発という主要な開発領域のすべてにおいて、若者を私たちの活動の中心に位置づけています。

リビアやイエメンのように、エンパワーメントによって女性の国づくりへの参加を図る場合でも、スーダンのマズムーン村のように、元戦闘員や軍閥指導者の生産的コミュニティへの包摂を促進する場合でも、モロッコのタフィラレット・オアシスのように、若者に気候変動や省エネ型ライフスタイルに関する教育を施す場合でも、私たちはともに、アラブ地域が擁する豊かな人的エネルギーと大きな希望を原動力として活用するよう努めています。本書では、このような具体的なストーリーをご紹介します。

2013年は、UNDPと日本政府がアフリカ開発会議（TICAD）を通じ、アフリカ開発促進に向けた協力をスタートさせてから20年目にあたります。アラブ地域のUNDP国事務所のうち9つはアフリカに所在し、このパートナーシップの恩恵を受けています。私たちは、同じく日本でアラブ開発会議を開催できる可能性が現実味を帯びてくると信じています。

アラブ地域全体での最近の動きが物語るとおり、開発は経済成長や財務データの好不調のみによって判断されるものではありません。開発には人間としての顔があります。その推進者も受益者も、人間を中心に位置づけて、尊厳、発言力、正義を推し進めていくことが開発なのです。

シマ・バホス

国連事務次長補

UNDP総裁補兼アラブ局長

2012年と2013年のアラブ諸国におけるUNDPプロジェクトに対する日本の資金拠出

2012			2013		
国	プロジェクト	金額 (百万米ドル)	国	プロジェクト	金額 (百万米ドル)
アルジェリア	若年層の雇用創出	0.50	エジプト	公共事業による雇用創出	5.60
ジブチ	農村部コミュニティにおける農牧業システム開発	1.00		グッド・ガバナンスの強化:社会契約センター	2.00
	緊急時への備え・対応と災害リスク管理	0.50		民主的プロセスの強化	2.00
エジプト	若年層の雇用創出	0.50	ヨルダン	ヨルダンにおける脆弱な受け入れコミュニティに	
	選挙業務・機構の強化	1.00		対するシリア難民危機の影響緩和	4.00
	公共事業による雇用創出プログラム	5.50		若年層の雇用創出プログラム	2.00
	カイロ地域センターのアフリカにおける		モロッコ	公共サービスの強化	0.20
	平和維持に関する研修機能強化	0.50			
ヨルダン	若年層の雇用創出	0.50	ソマリア	警察部隊能力育成・平和構築プログラム	7.30
リビア	国連の人道援助調整の強化	0.35		エネルギー安全保障改善のための太陽光利用促進	1.00
	人道状況改善持続にむけての早期復興	0.46		国境警備能力の育成	1.50
	暫定統治機構への支援	5.05	スーダン	障害者、帰還民とそのコミュニティの支援	1.00
モロッコ	若年層の雇用創出	1.00	シリア	インフラ損害評価のための能力開発	0.50
ソマリア	シャイフにおける食品安全強化とバイオ		チュニジア	農村部における飲料水供給ガバナンスの改善	1.00
	ガス技術導入	0.35		選挙プロセス支援	1.00
	ソマリア警察部隊支援	5.20		公共サービスの強化	1.00
	紛争にまきこまれた若者の社会復帰と再統合	6.03		実効的な国家公正管理システム (NIS) の支援	0.25
チュニジア	若年層の雇用創出	1.50		危機管理システム開発の支援	2.58
	国民対話と憲法制定プロセスの支援	7.60	イエメン	選挙支援	2.00
	緊急雇用と民間セクター開発の支援	2.30	パレスチナ	エリコ農産工業団地変電所建設	0.58
イエメン	若年層の雇用創出	2.00	被占領地域	エリコ農産工業団地管理棟建設	0.40
	大統領選挙の支援	1.14			
パレスチナ	エリコ農産工業団地管理棟建設		計		\$35.91
	被占領地域	1.09			
計		\$44.52			

出典:UNDP



UNDP Somalia

経済成長の増強

生計手段の確保と教育、保健サービスの普及は、全世界で貧困を削減するという国連開発計画(UNDP)の使命の中核にあります。

アラブ地域では若年層の失業率が極めて高く、彼らのニーズが満たされていないことは、もはや無視できなくなっています。国によっては、若年労働人口の30%以上が失業しています。例えば**イエメン**では、若者が失業者の50%を占めています。

UNDPはアラブ地域全体にわたって若年層の雇用プロジェクトに力を入れており、農村部の女性をはじめ、数万人の若者が職業訓練を受けています。そして現在、その多くが就職しています。

日本政府は数年前から、UNDPがアラブ地域で実施する貧困削減プログラムや、保健、教育などの基本的サービスの普及活動に協力してきました。例えば、北アフリカでの「グリーン雇用」プロジェクトを通じた雇用創出・食糧増産プログラムの幅広い成功により、生活水準の向上を図ることが私たちの共通の目標であることが実証されました。UNDPによる取り組みは、何千人もの若者をエンパワーし、彼らの起業の後押しや優良な就職口の確保に貢献しています。

▲ **ソマリア**: UNDPは2013年、その貧困軽減・生活手段支援プログラムを通じ、**ブラオ(ソマリランド)**のクーシャー国内避難民(IDPs)キャンプに暮らす一部避難民に事業資金を提供しました。このプログラムの支援を受けた人々は、「**動力ラクダ**」として親しまれている**人力車ビジネス**を立ち上げることができました。

アラブ地域での
小学校就学率は
2011年までに、
1999年の85%から
92%へと
向上しました。

イラクでは
500万
人の雇用が生まれました。

イエメンでは、
UNDPの「若年層経済
エンパワメント・
プロジェクト」の
成果として、若い男女
1200人が就職や
起業することが
できました。

ヨルダン:新卒者雇用プログラム

ユセフ・エル=ムグラビさん(23)は、ヨルダンの多くの若い学生と同じく、将来に大きな希望を抱いています。4人に1人が貧困下にあり、5人に1人が失業しているヨルダン南部のマアーン県に暮らすエル=ムグラビさんの夢はただ一つ。それは自分と家族のよりよい将来につながる、きちんとした仕事を見つけることです。

優秀な成績で2010年に大学を卒業したものの、労働市場に求められるスキルを身に付けていなかったエル=ムグラビさんは「卒業証書だけでは不十分だった。大学生の卒業後の進路は、陸路、空路、海路のいずれかの方法でヨルダンを出国することだ、などとはよく冗談半分に言われました。でも、私は国を離れたくはありません」と語ります。

エル=ムグラビさんはUNDPが支援する新卒の求職者向け訓練プログラムに参加しました。訓練プログラムには、民間企業でのインターンシップ・プログラムも組み込まれており、受講者の雇用の可能性は大幅に高まります。このプログラムは、アラブ諸国に暮らす若者の就職支援を目的として、UNDPが2012年4月に日本政府とのパートナーシップにより発足させたイニシアティブの一環として実施されたものです。

マアーン県観光局の広報担当インターンとして能力を認められ、現在エル=ムグラビさんは副局長を務めています。

「この訓練とインターンシップが私の人生にもたらした影響は計り知れません。就職への扉をついて開いてくれたのです」と彼は熱く語ります。



UNDP Tunisia



UNDP

クローズアップ:エジプト

カイロから北へ約300キロ。エジプト第2の都市アレキサンドリアへと続くいくつもの狭い路地の一つで、モハマド・ハミス・エル=サイードさんはコンピュータに向かい、木工品の最新デザインを仕上げています。

聴覚障害者のエル=サイードさんは幼い頃、叔父から木彫の技術を学びました。しかし、聴覚の障害に加え、マーケティングや基本的な会計の知識もなかったため、ほぼすべての仕事で搾取を受けてきました。自分の作品を売り込み、きちんと生計を立ててゆく術を知らなかったのです。

エジプトでは、失業率が13%に達し、その影響は若者の77%以上に及んでいます。UNDPは2012年3月、この問題に取り組むため、若年層の雇用創出プロジェクトを発足させました。その狙いは、エル=サイードさんのような若手起業家に、事業を立ち上げるのに必要な訓練を施すことにあります。

25歳になり、「訓練により私の人生は一変し、将来の新たな見通しが開けました。コンピュータを使ったデザインの制作とオンライン・マーケティングも始めました」とエル=サイードさんは語ります。

アルジェリア:2012年の暮れ、UNDPは日本政府とのパートナーシップにより、若年層の求職者に市民社会での雇用機会を斡旋するための雇用プロジェクト「フォルサ」(アラビア語で「機会」の意)を立ち上げました。現時点で100人の若い男女が雇用されています。このプロジェクトの立ち上げに際しては、芸術専攻の学生によるプロジェクト・ロゴのデザインコンテストも行われました。コンテスト優勝者のナディア・フェハールさんには、新型のiMacコンピュータが授与されました。

チュニジア:チュニジア南部のメドニン、タウイヌ両県の住民は、隣国リビアの動乱によって深刻な影響を受けました。UNDPは非政府組織(NGO)とのパートナーシップにより、新卒者に起業訓練を施し、事業立ち上げに大きな成功を収めました。縫製の訓練を受けたザハラ・トリグさんは、初仕事の注文を受けたところです。



UNDP Algeria



UNDP Libya

包摂的な社会の構築

この2年間、アラブ地域全体で大衆暴動が相次いだことを受け、UNDPは政治改革と暫定政権樹立を早急に求める声に応えるとともに、より包摂的かつ公正な政治制度を備えた国で暮らしたいという、若者を含む男女の希望をかなえようと努めてきました。

UNDPは特に選挙支援、司法へのアクセス、国民との対話の促進に重点を置き、これまで軽視されてきた人々の声を反映させるための活動に注力しています。

UNDPは日本政府とのパートナーシップにより、特に貧しいコミュニティに暮らす人々がその関心事項を訴え、この歴史的かつどんどん展開するプロセスに積極的に参加できるよう、市民の教育とエンパワーメントを目的とする幅広いプロジェクトを実施しています。

いくつかの国々で目覚ましい成果が生まれています。例えば、**エジプト、リビア、チュニジア、イエメン**では、この短くも困難な移行期において、数多くの画期的な進展が見られました。

▲ **リビア: 3時間待ちで投票を終え、大喜びのラディヤ・ブラウィ候補。**

エジプトでは、
農村部の女性
7万6000人
に国の身分証明書が
発給されました。

チュニジアで
は、**1700人**の
女性が民主的プ
ロセスと市民権に
関する訓練を受け
ました。

アラブ地域では、国会
議員に占める女性の割
合が2000年の2.6%から
2013年には**12.7%**
へと上昇しました。

イエメン:生体認証身分証明書の作成訓練



クローズアップ:イエメン

エルハム・サルハンさんには、ヘッドスカーフの中に隠された勇気の印があります。それは暫定大統領選挙を1か月後に控えた2012年1月、全国を回る啓発活動中に石に当たってきた額の小さなこぶです。この啓発活動はUNDPが企画し、ほぼ33年間政権の座にあったサーレハ大統領失脚後初となる重要な選挙に農村女性の参加を促すため、サルハンさんは村々を訪問していたのです。

サルハンさんは負傷にもめげず、不屈の精神で啓発活動を続けました。

「誰も私を止められません」と語るサルハンさんは、イエメン選挙・国民投票最高委員会の女性部長を務めています。「これは単なる仕事ではなく、権利の問題です。私がこれらの問題を個人的に重視しているのは、単に私が女性だからではありません。女性の権利だけではなく、人権全体の問題だからです」。

サルハンさんの傷は、女性の権利を巡ってイエメンでは複雑な闘いがあることを物語っています。農村女性の65%は読み書きができません。たゆまぬ啓発活動に取り組み、「教育こそが鍵。女性のエンパワーメントが必要です」と語ります。

UNDPが支援しサルハンさんと女性部が実施したプログラムのおかげで、イエメンの女性有権者400万人のうち25万人以上が、2012年2月の暫定大統領選挙で投票に参加しました。

UN Women/Cain Maïke Kohl



「あらゆる女性が意見を述べるべきです」こう語るのは、ギーザ県のシェーン・モハメドさんです。モハメドさんはエジプトで身分証明書(ID)を持たない500万人の女性の1人。2012年にUNウィメンの協力で女性市民権イニシアティブが発足してから、200万人の女性がIDの支給を受け、投票にいけるようになるだけでなく、子どもの出生証明書の取得や学校への登録も可能になると見られています。

リビア:有権者意識向上にむけての障壁除去

UNDPは2012年、新生民主国家リビアの将来にむけての支援として、60年ぶりとなる議会選挙への準備に協力しました。市民教育者の中心グループは、訓練を通して、大学生50万人やリビア・スカウト連盟のメンバー1万8000人を含む若者に、投票と国民参加に関する教育を施すことができませんでした。

市民団体との協力で発足した「女性の声を届けよう(My Voice for Her)」キャンペーンにより、リビア女性130万人の有権者登録が可能となりました。2012年7月の選挙では、男性支配の社会の殻を打ち破り、629人の女性が立候補しました。UNDPは170人の候補者を支援しましたが、うち8人が当選し現職の国会議員を務めています。

UNDPの訓練を受け、憲法問題に関する啓発活動を実施したババさんは、「若者はリビアの革命で中心的な役割を果たしました。私たち若者には、持続可能な民主国家への移行に向けて、果たすべき役割があります」と語ります。

UNDPは2013年7月、チュニジアの若者のニーズと憲法制定プロセスにおける役割に関する公開討論を開催しました。UNDPが制作を支援した歌「エンティ・エースト(あなたが主役)」は、選挙の非公式ソングとなりました。現代風ながらチュニジア音楽のルーツを大切にする若手アーティストのグループが作詞、作曲、演奏を手がけたこの歌は、新しいチュニジア再建への積極的な参加を若者に呼びかけました。





UNDP Iraq

人間の安全保障の確保

アラブ地域の紛争は他のどのできごとよりも、人々、コミュニティ、国々から、よりよい暮らしやよりよい将来の計画を築くための選択肢を奪い去りました。苦心して得た開発の成果は、紛争によって水の泡となり、長年の課題克服に向けた前進はさらに難しくなっていました。

貧困や政治的混乱、抑圧はいずれも、アラブ地域の若者たちを生き残り手段を探すことへと駆り立てました。ソマリアでの海賊行為、スーダンでのギャング暴力、ヨルダンでのシリア難民との対立はいずれも、その一例にすぎません。

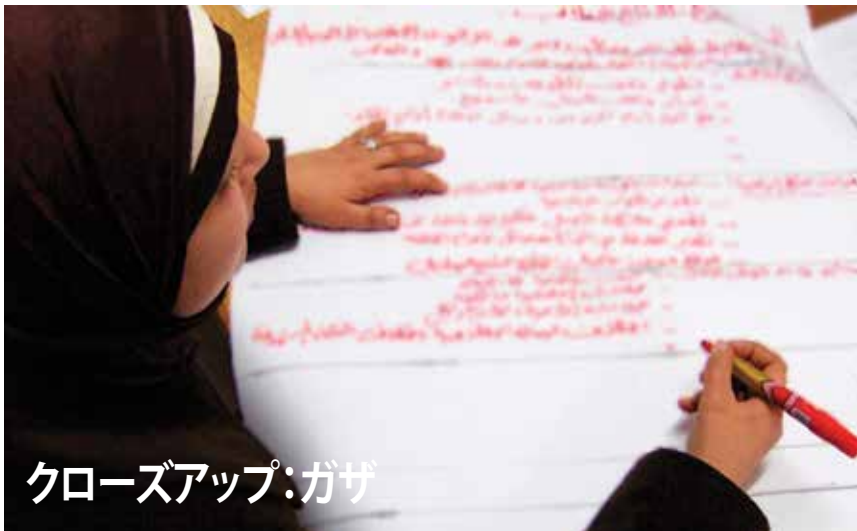
UNDPは日本からの拠出金を活用し、紛争にまきこまれた人々に直接支援を届けています。学校や家、職場、道路の破壊の影響を受けた人々にも、より安全な将来を求め社会復帰した元戦闘員にも、UNDPは和平プロセスを支援し、政府職員のスキル育成、学校や病院、下水道の整備、地方自治体の強化、域内の人間開発と安全保障の向上に貢献しています。

▲ **イラク**: 日本政府から1800万ドルの拠出を受け、UNDPは2004年の戦災で廃墟と化していたファルージャ小児・産婦人科病院を、最新式の診断・治療・処置用機器を備える近代施設へと作り変えました。

ヨルダンは2012年、中東で初めて地雷のない国として認定されました。

2012年、アラブ地域では各種の若年雇用計画により、約
30万人
の雇用が生まれました。

スーダンでは、
1万7520人
の元戦闘員が社会復帰を果たしました。



クローズアップ:ガザ

UNDP

ウム・モハメドさん(50)は、現地部族の保守的な伝統を打ち破り、ガザ地区で初の「ムフタラー」の1人となりました。ムフタラーとは、裁判手続きに頼らず、紛争を平和的に解決する人を指します。

法的調停とその基本的ルールに関する52時間の訓練を終え、この非公式ながら重要な司法の番人となるのに必要な法的スキルを身に付け、和平仲介者としての役割を自負しています。

「私は長い間、説教師を務めてきました。でも、夫の支援に加え、リーガル・クリニックで訓練を受けたことが、この職務を果たせるという決定的な自信につながったのです」と語ります。

女性のムフタラーは2012年7月から2013年4月の間、1500件近くの事案で調停役を務めました。UNDPがパレスチナ被占領地域で展開する「司法アクセス」プログラムでは、法律専門家が紛争解決、交渉テクニック、婚約や結婚、離婚に関する法規の概要に関する訓練を施しており、そのプログラムの一環としてこうした調停者を養成しているのです。このプログラムには、日本政府も資金を提供しています。

ウム・モハメドさんは「女性であることは強みなのです。なぜなら、男女両方と話ができるから。男性のムフタラーは男性としか話せません。女性と話すには、まったく中立で正確とは言いきれない男性の家族代表を通してしかコミュニケーションできないからです」と語ります。



パレスチナ被占領地域で日本政府が建設した総合病院を訪問する紺野美沙子UNDP親善大使。この病院は現地住民から「日本病院」と呼ばれ、親しまれています。

スーダン:スーダンの若者に希望を

2011年に南スーダンが分離独立するまで、スーダンではそれぞれのコミュニティを守るため、数千人の戦闘員が徴用されていました。モハメド・アル=アッバさん(32)もその1人です。

スーダン南部の畜産農家に生まれ育ったアル=アッバさんは、いきなり家畜の群れを手放すよう強いられ、紛争地帯の青ナイル地域に隣接するセンナール州の農村マズムーンに移住させられました。この地域は深刻な水不足に見舞われており、農業の働き口もほとんどありませんでした。

UNDPはセンナールをハイリスク・コミュニティと認識し、平和と安全の促進や、再定住する帰還戦闘員の社会復帰に向けたエンパワーメントを図るため、幅広いプロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトにより、水源が確保され、学校と和平調停に向けた話し合いの場を兼ねる多目的公民館が建設されたほか、帰還戦闘員向けの職業訓練も始まりました。

電気工としての訓練を受けたアル=アッバさんは、すぐに働き口を見つけることができました。「電気工の訓練は絶好のタイミングでした。マズムーンには電気が通ったばかりで、電気工が必要だからです」と語っています。

ソマリア:3人兄弟の長男だったアリさん(21)は数年前、両親を爆破事件で亡くし、孤児となりました。検問所で働き始めたものの、人生に絶望して薬物や暴力へと走り、サッカー選手になるという幼い頃の夢も捨ててしまいました。若年失業率が急激に悪化する中で、ソマリアの若年男性は生き延びるため、ギャングや海賊などの暴力行為を働くことが多くなりました。UNDPその他の国連機関は2011年、日本からの資金提供を受け、ソマリアの若者に社会復帰と自己実現の機会を与えるためのプログラムを発足させました。機械工としての訓練を受けたアリさんは、今までにこのイニシアティブの対象となった若者1650人のうちの1人です。



UNHCR/B. Heger



UNDP Djibouti

持続可能性を目指す資源管理

世界で最も水不足が深刻な10か国のうち、9か国がアラブ地域にあります。気候変動と海面上昇の影響により、チュニジアのような沿岸国では、水不足が差し迫った問題になっています。

同時にアラブ地域は、自然資源の宝庫でもあります。砂漠気候のため、年間を通じて豊富な太陽光にも恵まれています。しかし、アラブ諸国の多くが世界で有数の電力消費国でもあります。

UNDPと日本政府は、モロッコやチュニジアなどの北アフリカ諸国を含むアラブ地域全体において連携し、環境にやさしいプロジェクトの推進や気候変動に関する学校教育、省エネプロジェクトへの取り組みを行っています。

貧しい人々も公平に、生存と開発に必要な資源を利用できるようにすることは、UNDPの優先課題です。アラブ地域は、その自然資源の可能性を追求し、特に若い世代のために、より持続可能な未来の実現に向けて取り組む態勢を整えつつあります。

▲ ジブチ：干ばつによる飢饉を緩和するため、UNDPは2012年、日本からの資金拠出を受け、農牧地の開発と、栽培技術、堆肥づくり、水・土壌保全に関する農民の訓練を行うプロジェクトを立ち上げました。新たな作物が導入され、飼料とスイカの栽培はともに利益をうむ事業として大成功を収めています。飼料の栽培により、厳しい干ばつにみまわれた時期でも、ヤギの乳の生産増大が確保できました。スイカは栄養価の高い作物として役立つ一方で、農家の大きな収入源にもなっています。

アラブ地域では、
1995年から2010年の
間に、オゾン層破壊物質
の消費量が**98%**減少
しました。

アラブ地域では、
都市住民の**89%**と
農村住民の**73%**が改善
された飲料水を得ることが
できるようになりました。

ソマリアの
プントランドと
中南部では現在、
5200世帯が
省エネ型太陽熱
調理器を利用し
ています。

ソマリア:畜産業で進む木炭の代替

ソマリアのハウド高原は乾燥した灼熱の地です。川床はほぼいつも乾ききり、ソマリア人の生活を支える家畜はアカシアのわずかな木陰で何とか暑さをしのいでいます。

しかし、この容赦なく照りつける太陽は、潜在的なエネルギー源でもあります。これを活用すれば、調理に木炭を用いる必要性が大幅に減り、ソマリアの環境への壊滅的な影響を緩和できるからです。

ソマリアのプントランド、カルカール地域では、3500世帯に省エネ型ストーブが供与されたほか、代替エネルギーを手がける現地企業も出現しはじめ、多くの人々に雇用の機会が提供されています。

「以前は毎日4袋の木炭を使っていましたが、木炭がないと食事が作れないので、これに代わるものを見つける必要がありました。」こう語るのは、ソマリランドの政府系開発機関・シャイフ技術獣医科大学の運営担当者アリ・シャカルさんです。UNDPは同校に対し、生分解可能な畜産廃棄物をバイオガスに転換し、調理・発電用のエネルギー源として活用するための支援をしています。

「バイオガスがあれば、樹木を伐採せずにすむので環境を保護でき、肥料を生産することもできます。学内の農場で披露し、関心のある農家に紹介してゆくつもりです」



パレスチナ被占領地域 (OPT)
ラファフの住民5万人以上に
水を供給する3000m³の
給水タンク。最近まで、
市の通水時間は週2回
3~4時間に限られ、水道
の出も悪い状態が続いて
いました。

レバノン:重油回収の作業前と後:
レバノン沿岸に漂着した重油
1万2000~1万5000トンの
回収作業が完了しました。



クローズアップ:モロッコ

モロッコの南東端にあるタフィラレットは、サハラ砂漠に位置する国内最大のオアシスです。砂丘が広がるこの地域には、歴史的な遺産や名産品のナツメヤシを目当てに、多くのエコツーリストたちがやって来ます。タフィラレットの遊牧民は、テントの外の厳しい生活環境とは対照的に、外国人観光客にモロッコ式のミントティーをふるまい、遊牧生活の一面を披露して暖かく迎えます。

こうした自然の美と豊かな歴史遺産にもかかわらず、タフィラレットの人々は日常的水不足と、耕地の継続的な劣化に直面しており、よりよい将来を求めて移住していく若者も多数に上ります。

タフィラレットの将来を守る必要性を認識したUNDPは2007年、「アフリカ適応プログラム」を通じた日本政府の支援やその他パートナーの協力を受け、土壌劣化や水不足が生態系、経済、社会に与える影響に対処する、持続可能な開発のためのプロジェクトを立ち上げました。

タフィラレットに113か所ある居住区の1つ、フェズナで町長を務めるムーサ・スリマニさんは、「フェズナと町民とのパートナーシップは、私たちがいかにお互いを補完できか実証するものです。太陽光発電の街灯や下水浄化などのインフラ整備から、環境教育、文化保全に至るまで、すべてが地域振興を後押ししています」と語ります。

フェズナでは250人が、風車の設置と太陽エネルギーの導入で可能になった灌漑の恩恵を受けています。約1300本のヤシの木も植えられました。イズリフとタフルートの町では、5000人以上の町民が環境にやさしい共用洗濯機2台を利用できるようになりました。また、エコツーリズムの振興により、クサルなどのさびれた町が観光拠点へと大転換を遂げました。

クサル協同組合長のラブハ・Aさんは「農業への関心が再び高まってきました。今や私たちは他の村から羨望の目で見られるようになったのです」と語っています。



UNDP Lebanon



UNDP Lebanon

「シンプルに言えば、**平和と安全**は**前進と開発**活動の
前提条件です。これら目標の達成に向け、今こそ私た
ちの取り組みを拡充すべきなのです」

ヘレン・クラーク
国連開発計画 (UNDP) 総裁



人々を力づけ、
国々をたくましく

United Nations Development Programme
Regional Bureau for Arab States
One United Nations Plaza, DC1-2228
New York, NY 10017

www.undp.org

 www.facebook.com/undparabstates
 www.twitter.com/undp
 www.youtube.com/undp



© UNDP, October 2013